

## 交通に関する様々な観点からの学習を通して 主体的に交通ルールを守る態度を育成する学習の事例

## 交通

高等学校 1～3学年 総合的な学習の時間・特別活動（ホームルーム活動・学校行事）

授業づくりのポイント

- 交通規則理解、加害者・被害者の立場からの理解、自転車整備に関する知識の習得等、交通に関する様々な観点からの学びを行うことで安全な自転車利用についての知識を深める。
- 具体的な調査データを使用し、自らの行動と照らし合わせて改善策を考えさせる。

単元（題材）について

1 題材名 「主体的に交通ルールを守ることができるように交通に関する知識の定着を図ろう」

## 2 目 標

II-1、2、3、4

自転車に関する知識に総合的に触れ、主体的にルールを守ることのできる態度を育成する。

## 3 教材化の視点

全校生徒の約7割が自転車通学をしており、朝の登校時には通勤する一般の自転車・歩行者と合わせて校門は混雑をする。以前より校門前の交通マナーに対する苦情が多く、交通事故につながりかねない状況も発生していた。目の届かないところで交通事故も発生しており、自転車のルールの徹底を図ることが急務であった。

今回は多くの体験活動を実施し、生徒が様々な角度から交通安全に対して考えることができるよう、外部の組織と連携をした。そこで得た知識と経験を活用して生涯を通じて安全な生活を送るとともに、進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献できるような人材の育成を目指す。

指導計画（12時間扱い） ※以下の内容に加え、日常的に、登校時間帯において校門で指導を継続して行う。

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
1	○スクエアードストレート方式の交通安全教室および、学校周辺の実態に沿った交通マナー実例紹介【学校行事】	◎一般的な交通規則と事故の事例を学ぶとともに、本校周辺の実際に即した運転マナーを指導する。（H29、5月）
2	○新しくなった交通規則周知【ホームルーム活動】	◎資料を配布し、予習を促す。（7月）
3	○交通事故被害者の声を紹介【総合的な学習の時間】	◎始業式において、被害者遺族の手記を朗読。被害者の悲痛な思いを理解させる。（9月）
4	○交通規則確認テストの実施【総合的な学習の時間】	◎簡単な交通規則の確認テストを実施。（11月）
5	○自転車運転シミュレータ全員実施（1年生）【学校行事】	◎東京都教育委員会の協力で、自転車シミュレータの体験。（2月）
6	○スクエアードストレート交通安全教室【学校行事】	◎交通事故の事例を学ぶ。（H30、5月）
7	○交通ルール・整備についてのアンケート実施【ホームルーム活動】	◎外部組織から提供を受けたアンケートを実施。（7月）
8	○交通事故防止講話【学校行事】	◎終業式において気を付けるべき事例の紹介。（7月）

9	○被害者遺族の講話 【学校行事】	◎警視庁と連携し、「命を大切にする教室」を実施。被害者遺族の生の声。9月
10	○自転車一斉点検の実施 【学校行事】	◎自転車商協同組合城東支部の協力により、全車一斉点検の実施。9月
11	○交通規則確認テストの実施 【総合的な学習の時間】	◎簡単な交通規則の確認テストを実施。12月
12 (本時)	○データから読み取る今後の課題探し 【総合的な学習の時間】	◎これまで学習したことの再確認と、データを確認して、これから自分が何をしなければいけないか、どうすれば安全で安心な社会にできるかを考える。2月

### 指導事例（第12時／12時間）

#### 1 ねらい

データを活用して課題を発見し、これからの取り組むべき内容について具体的に考え、自ら発信する方法を考えることができるようとする。

#### 2 ポイント

各自の意見をグループ内で発表し、議論した上でグループごとに全体へ紹介する。その考えになった理由をデータから読み取った部分と交えて説明させる。

#### 3 指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点
導入	○本時のねらいの確認。 •今までの活動を振り返る。 •データから課題を見付け出し、発表する。 •グループで共有・理解し、全体に発表できる ようにする。	◎後半に話し合いのグループが円滑に作れるよう、人数を確認し、あらかじめ振り分けておく。  安全で安心な交通社会を実現するためには何が必要なのかを考えよう。
展開	○今までの活動を振り返る。 •スライドを見ながら、体験したことを確認する。  ○データから課題を見付け出し、改善策を考える。 •配布された資料を参考に、課題を見付けるとともに、今後どのように交通安全に取り組むべきか、具体的な取組例を挙げながら計画する。  ○グループで共有・理解し、全体に発表する。 •話しを行い、グループ毎に発表する準備を行う。	◎資料を確認しながら、それぞれの体験活動が何を目的に行われていたかを記録させる。  ◎データの読み取りが円滑に行えていない場合は、例示等、支援する。  ◎話しの方法は資料に添付する。うまく進まない場合は支援する。 <b>■</b> これからの取り組むべき課題について具体的に考えている。（観察）
まとめ	○各グループの代表となる案を発表・共有する。	◎実際に実施できるよう、具体的な運用方法まで検討できるよう、声掛けを行う。 <b>■</b> 具体的に考えた取り組むべきことを、実施するための方法を考えることができる。（観察・ワークシート）

#### 生徒の感想

- この2年間で多くの事を経験し、安全に登下校が行えるようになってきた。自分が高齢者になっても、安全に自転車に乗れるようにしたい。自分がルールを守っていても、交通事故に巻き込まれないように気を付けなければならない。

#### 生徒の変容

- この2年間で、近隣からの交通マナーに対する苦情は激減した。登校時の校門前の様子は大きく変わり、安全に道を譲り合う姿が見られるようになった。